

# 視野維持へのあくなき挑戦

日時 2026年5月17日(日)  
12:35~13:25

## 会場 第1会場

東京慈恵会医科大学  
1号館 3F講堂

第15回日本視野画像学会学術集会への参加には、参加登録が必要です。  
2026年4月13日(月)まで、早期割引を実施しております。



### 座長



中村 誠先生  
(神戸大学)

皆様は、視野障害の進行を抑制するために、臨床で何を考え、どのような工夫をされていますか？緑内障による視野障害の進行は不可逆的であり、進行によって患者さんの生活の質に影響を及ぼすため、早期発見と適切な治療介入は視野維持の鍵となります。しかし、緑内障の病態は複雑であり、進行抑制のためのアプローチは多岐にわたります。

近年、基礎研究から房水流出における主経路の重要性が改めて示唆され、一方、臨床現場では、依然としてPPG症例への治療介入、薬剤選択、副作用マネジメント、そして治療継続は課題となっています。こうした中、FP受容体とEP3受容体に作用するセタネオ®点眼液0.002% (以下、セタネオ®) が新たな選択肢として登場しました。本剤は主経路と副経路の両方から房水流出を促進し、眼圧下降効果を発揮することが期待されています。

本セミナーでは「視野維持へのあくなき挑戦」をテーマに、基礎の視点から盛先生、臨床の視点から溝上先生にご講演いただきます。視野障害の進行を抑制するために、何を考え、どのように挑戦できるのか、最新の薬物治療選択肢であるセタネオ®の製品特性および臨床的価値も含め、参加者の皆様とともに考える場にできればと思います。

### 演者 1

ダイバーシティから考える  
セタネオ®点眼液0.002%の作用

盛 崇太郎先生 (神戸大学)



### 演者 2

視野維持に向けた  
臨床からの考察

溝上 志朗先生 (愛媛大学)



# 視野維持へのあくなき挑戦

第15回日本視野画像学会学術集会 ランチョンセミナー3

日時

2026年5月17日(日)  
12:35~13:25

会場

第1会場

東京慈恵会医科大学 1号館 3F講堂

## 座長

### 中村 誠 先生 (神戸大学)

1989年 神戸大学 医学部 卒業  
1995年 神戸大学 医学部 助手  
1999-2001年 ペンシルバニア州立大学 医学部 眼科・細胞分子生理学 博士研究員  
2005年 神戸大学 医学部 講師  
2013年 神戸大学大学院 医学研究科 外科系講座 眼科学分野 教授  
現在に至る



## 演者 1

### ダイバーシティから考える セタネオ®点眼液0.002%の作用

#### 盛 崇太朗 先生 (神戸大学)

2013年 神戸大学 医学部 卒業  
2015年 加古川西市民病院 眼科  
2016年 神戸大学医学部附属病院 眼科 医員  
2020年 神戸大学大学院 医学研究科 修了、医学博士  
2021年 ユニバーシティカレッジロンドン 眼科学研究所 特別研究員  
2023年 神戸大学医学部附属病院 眼科 特定助教  
2024年 神戸大学医学部附属病院 眼科 助教  
現在に至る



## 演者 2

### 視野維持に向けた臨床からの考察

#### 溝上 志朗 先生 (愛媛大学)

1995年 愛媛大学 医学部 医学科 卒業  
1996年 大阪厚生年金病院 眼科 医員  
2005年 愛媛大学大学院 修了  
愛媛大学 医学部 眼科 助手  
2006年 同 眼科 特任講師  
2009年 愛媛大学大学院 医学系研究科 視機能外科学 講師  
2012年 愛媛大学大学院 医学系研究科 視機能再生学講座 准教授  
2020年 愛媛大学大学院 医学系研究科 眼科学講座 准教授  
現在に至る

